

令和5年度 第1回 幸田町総合戦略推進委員会 議事録

○日 時：令和5年8月29日（火）

○場 所：役場4F第3第4委員会室

○出席者：委員及びオブザーバーの計15人、町事務局等14人

○協議内容と主な意見等

- ・「幸田町まち・ひと・しごと創生総合戦略」の概要及び昨年度までの取組状況、令和4年度の数値目標の評価、各種推進施策の進捗状況について、委員から以下のようなご意見をいただきました。

●令和4年度の数値目標に対する評価について（KPI：重要業績評価指標）

- ・就農者数について、新たに始めた人だけでなく、高齢化などで辞めてしまった人の人数も把握し、農業関係者全体の推移を把握した方が良い。

●推進施策の取組状況について

- ・今年度から運用開始した施設が3つあるため、町民に広く周知するとともに、施設整備によって得られる効果を数値的に把握することが重要である。
- ・ロケツーリズムを進めた効果として、観光者数の増加に加え、観光やロケを契機に定住してくれる人が増えると良い。
- ・空き家を利活用して整備した施設の利用率は、団体数や人数だけでなく、利用の多い時間帯も把握することで、より詳細な利用状況が見えてくるため、調査した方が良い。
- ・多文化共生施設を国際交流協会活動拠点として活用しているが、国が留学生を5年間で3倍にすることを宣言したため、施設を利用するメリットを外国籍の方々に伝えて利用促進し、取組をさらに発展させた方が良い。

●デジタルな取組について

- ・専門用語を多用されると、意味を理解することが難しくなるため、資料を作成する際は誰にでも分かりやすい言葉を使った方が良い。
- ・多分野でデジタル化を進めている中で、教育分野に関する施策が不足しているように感じたため、積極的に進めてもらいたい。

●幸田町のまちづくりについて

- ・土地区画整理事業などの宅地開発で定住人口を確保するだけではなく、町内企業の従業員が住みたいと思う住環境を整えて定住してもらうことで、第2次総合戦略が目指している「しごとが人を呼び、ひとがしごとを呼び込む」まちづくりが実現できると思う。
- ・新たに宅地開発を行う場合は、事業計画の中に地域交流の場となる施設の整備を盛り込んだ方が良い。
- ・免許返納をした高齢者のうち、特に単身者は地域内の移動手段がないことが大きな問題となっている。
- ・住民が川の草刈り等の奉仕活動をしているが、高齢化が進んでいる地区もある。新規住民の確保だけでなく、既存の地区のまちづくりも考える必要がある。
- ・第3子が安心して産めるまちづくりに関連して、育休退園問題の対応をしてもらいたい。

以 上